



宗学院

浄土真宗の教義と安心を体系的に学ぶ

専如ご門主さまは、伝灯奉告法要ご親教『念仏者の生き方』で、「あらゆる人びとに阿弥陀如来の智慧と慈悲を正しく、わかりやすく伝え、そのお心にかなうよう私たち一人ひとりが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います」とご教示くださいました。

ご法義を正しく、わかりやすく伝えるには、自らの宗学研鑽をかかすことはできません。浄土真宗の教義と安心を体系的に継続して学んでいただけたところが宗学院別科です。平成14年に開設し、今日まで延べ950人を超える僧侶の方に受講いただきました。

重要文化財である龍谷大学大宮学舎本館講堂において、勤学・司教の和上による「安心論題」「本典概説」「三経七祖教義」「仏教概論」の講義が開講されます。

浄土真宗本願寺派教師の方を受講対象としておりますが、聴講制度も設けており、多くの方のご応募をお待ちいたしております。

別科 受講生

2019
年度



募集

□ 担当講師

安心論題で
教学のカナメが学べます。

「安心論題」担当



本願寺派勤学
龍谷大学教授
深川 宣暢

本典を通して、
教義体系の全体像を学びます。

「本典概説」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
殿内 恒

親鸞聖人の教学の基盤は
浄土三部経と七祖の教えにあります。

「三経七祖教義」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
武田 晋

仏教を学べば、
浄土真宗の基本が分かります。

「仏教概論」担当



本願寺派司教
龍谷大学教授
藤丸 要

お問い合わせ先

浄土真宗本願寺派

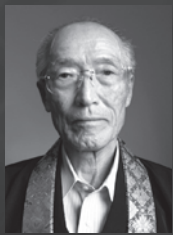
宗学院

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル
本願寺門前町 浄土真宗本願寺派宗務所内

TEL. 075-371-5181(代)

<http://shugakuin.hongwanji.or.jp>

受講生の声 — こえ —



いしだ とも のり
石田 智則

平成30年度より受講

仏教・浄土真宗を学ぶには、「安心論題」が肝要であると尊敬する先輩から聞かされました。中仏通信教育課程を終了したばかりの私には一体何のことやら、その言葉の意味も分からず用語調べをしても難しく取り付く島もありませんでした。期を逸すして様々な御縁に恵まれ30年度から宗学院別科で聴講生として学ばせていただいております。

当初は私の如き者が講義に出席しておりましても全くの五里霧中でしたが、講師の先生方は教義・法義を理解しやすいように懇切丁寧に御講義御指導くださいます。聴講を重ねていくうちに仏教教学の概念、浄土真宗の教えが些かなりとも胸に落ち合した時は一汐の感です。中仏時代にもっと基礎をしっかりと学ばなかったことに内心恥じたる思いです。

今年度は安心論題、本典概説、三経七祖教義、仏教概論の四講座ですが他に特別講座も企画されております。

齢を重ねた今日、伝統ある大宮学舎で学ばせていただける幸せに改めて身の引き締まる思いです。



おおち きよ と
鷲地 清登

平成30年度より受講

わかりやすい言葉で、ご法義を確実に伝えていくことの難しさを日々感じるなかで、改めて、宗学を基礎から学びなおしたいと思い、宗学院別科を受講させていただきました。

宗学院別科では、宗学の基礎から、より深いところまで、体系的に学ぶことができます。私の理解が及ばないこともありましたが、学び続けることの大切さを教えていただいているように思っています。如来さまより賜るご信心を、私がどのように受け取らせていただくのか、その仕組みを教えてください。少しずつですが、ご法義のありがたさを、よろこびとともに伝えていくことができるのではないかと感じております。

受講生の皆さまが真摯に学ばれている姿が尊く、試験のための勉強ではなく、自らのご法義をよるこびながら、学ばれている空気がとても心地よく感じます。和上方をはじめ、皆さまのおかげにより、週に一度の「学びの日」をいただいておりますこと、とても感謝しております。



おお ほん たつしゅう
大原 哲秀

平成30年度より受講

以前に勸学寮真宗講座を受講させて頂きまして、自らの不足な処、更に深く学びたいという気持ち、其の為に自分自身がまず知らなければならぬ数多の事柄が様々に見えてきました。

その意欲を持った上で今回、宗学院別科の講座を受講させて頂きました。

どの和上方の授業も様々な角度から、そして多彩な情報と共に楽しく興味深い内容のお話しをされております。更には、意欲は有るがどうしても理解が乏しい私にも合わせて下さる丁寧な授業運びには毎回安心して、受講時間も長く感じずに充実して学ぶ事が出来ております。

自らの為、そして後にはご縁の方に学んだ事を、自分自身も優しく丁寧に楽しく伝えられる様、これからの授業にも日々熱意を持って励みます。そう感謝を持って通わせて頂ける、活力漲るとも素敵な学びの場です。



くぎぬき ゆうしゅう
釘貫 祐彰

平成29年度より受講

父から住職を継いで二十五年間、兼職僧侶をしてまいりました。法事の法話や連拜等、自分なりに勉強していましたが、日頃から力の不足を実感していました。退職により専業となった機会に、系統的に学びたいと思い立ち、宗学院を受講しました。

一流の先生方、安心論題や仏教概論等バランスのとれた科目、そして国の重要文化財に指定されている重厚な龍谷大学本館講堂が主たる教室となっており、仏教を学ぶ素晴らしい環境が整っています。

また、通常の講義のほか、多宗派やイスラム教などを研究されている先生方の特別講義もあり、親鸞聖人のみ教えを中心としつつも、現代社会の宗教の現状に関するところから知ることができます。

また、年に一回、他宗派の本山等を訪れる課外授業があり、観光では知れない深い学びに触れることができます。



なか がわ ゆい
中川 結幾

平成30年度より受講

この3月に大学院を修了し、学びの中で感じる喜びや日々の生活の中でのご法義との出遇いを自らの言葉でより自由に表現できるようになりたいと思うようになりました。その頃に宗学院別科のチラシを拝見し、別科では宗派を超えて学びの門戸を開かれていることを知り、ここでの学びが力になってくれることを期待して受講を決めました。

授業の中で様々な引用の経典にかえりながら流れに沿ってとお聖教を読み進めていくと、真宗教義の緻密な構成に驚かされてばかりです。

また難しく感じている仏教各宗の内容や真宗教義についても、わかりやすい例を用いて説明して下さるので印象に残り、後で復習をする時にも例え話をたよりに思い出すきっかけをたくさんいただけます。

仏教学や真宗教の広く深い世界の中で、自分で問いを探し、お聖教をたよりに学び続けていくための基礎作りにも最適な環境を宗学院では用意してくださっていると感じています。



にしだ ちあき
西田 ちあき

平成30年度より受講

看護師として医療に携わる私はその業務の傍ら、法務にも従事する中で僧侶としての立場としても人と接しています。

中央仏教学院通信課程に学び、そして得度習礼や教師資格を得るための学びの過程で、浄土真宗について最小限の教養を学びましたが、自分の中ではまだまだ不十分さが否めません。苦悩を持つ人々と話す中で、教学と結びつけて話すことができないのが、自身の悩みでもありました。そんな中で、宗学院別科という教育機関があることを知り、改めて宗乗と余乗に対する理解を深めたいと思いました。

浄土真宗を体系的に学ぶことは、宗門に属する上においては当然であり、教学の学びを深めることにより、自身にとって日常的な医療現場や法務に活かせると信じてやみません。

先生方の講義は難解ではありますが、何よりも私に御聖教をひもとく機会を常に与えて下さっていることの尊さを嬉しく思っています。

毎週の開講日には、共に学ぶ先輩や仲間たちと講義のことを話したり、いろいろな未知のことを教え頂いたり刺激をうけています。またそうした関わりの中で心が癒やされていますし、高めあえる人と出会っている喜びを感じています。



ふか み けいりゅう
深見 慧隆

平成30年度より受講

私は大学院の先輩の勧めにより、宗学院別科を聴講生として受講しました。今年度は大学院との兼ね合いもあり、午前中に開講される「安心論題」と「本典」を聴講しております。

別科の講義では、解説の合間に和上方の巧みな譬えやお味わいを聞くことができ、大学院では味わうことのできない雰囲気も堪能しております。

また、講義を共にする皆様の宗学研鑽に励まれる真摯な姿に刺激を受け、浄土真宗のみ教えを共に学ぶ喜びを頂戴しております。別科の講義が宗学を学ぶ上での自分自身の特別な時間となっています。



よしだ てる ゆき
吉田 照幸

平成24年度より受講

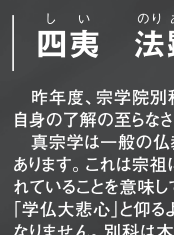
宗学院別科に通い始めてから、七年目に入りました。毎週木曜日は、何も用事を入れない日。別科で講義を聞かせてもらう大切な一日です。

講義のテーマは同じでも、七年間の和上方の講話は年々奥深くなっていて、いつも初事の感があり、こころに浸り込んでいきます。

世俗的な損得勘定であえて言わせてもらえば、浄土真宗の僧侶は、別科の講義を聴講しないと大損です。いくら時間があっても、金を積んでも買うことのできない大切なもの（こころの豊さ、余裕、安定）を頂けるだけでなく、浄土真宗の教義と安心を体系的に学ばせていただけるからです。

別科に通うようになって、聖典は「注釈版」から「聖典全書」を引くようになり、知らず知らずのうちに、漢文で読め、理解できるようになっている自分に気づきました。

今、私は、自身が「無戒の名字」の浄土真宗の僧侶であることに自信と誇りを感じております。今後も、「真の仏弟子」とならせて頂くため、体力がゆるす限り別科に通わせていただきたいと思います。



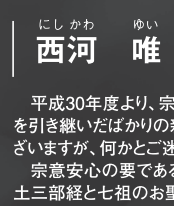
しい のりあき
四夷 法顕

別科助手（本科研究員）

昨年度、宗学院別科の助手を拝命いたしました。受講生の皆様より受けるご質問を通して、自身の了解の至らなさを実感すると同時に、一緒に学ばせていただける喜びを感じています。

真宗学は一般の仏教理解を意味する「通途」という言葉に対して、「別途」と表現されることがあります。これは宗祖によって顕やかにされた浄土真宗の教えが、通途とは別の論理に支えられていることを意味していると言えます。その論理とは阿彌陀如来の慈悲です。善導大師が「学仏大悲心」と仰るように、宗学を学ぶということは如来のお慈悲を学ばせていただくことに他なりません。別科は本館講堂の尊前にて「安心論題」、「ご本典」、「三経七祖」、「仏教概論」を和上方より受講させていただける希有な場所です。

また、毎年本科の和上方による特別講義や、宗門内外の著名な先生による公開講座などもあり、多角的に宗学を学ぶことができるのも別科の魅力の一つです。宗学院別科での学びは、真宗僧侶として歩んでいく上での大きな礎になることと思います。



にしかわ ゆい
西河 唯

別科助手（本科研究員）

平成30年度より、宗学院別科助手に任じられました。長く助手をお勤めであった先輩からお役を引き継いだばかりの新米でございます。ことに、受講生の皆様からはご質問を頂戴することがございますが、何かとご迷惑をおかけしております。

宗意安心の要である安心論題、浄土真宗の根本聖典であるご本典、宗祖が仰ぎ学ばれた浄土三部経と七祖のお聖教、そして浄土真宗を宣教たらしめる背景としての仏教学について、週に一度、昇界の泰斗である和上方からご講義を頂くことができますことは、誠に慶ばしいことでございます。

とりわけ尊く思われますことは、出身も年齢も性別も異なる者同士が、一同に宗学の殿堂でありまた本館講堂へと集い、宗学研鑽の思いを胸に、共にのみ教えを頂戴するという嬉しいご縁にめぐり遇わせて頂いたということでございます。受講生の皆様の末席を汚しながらはございますが、共に学び、法悦に浸る日々を送って参りたいと思っております。